

平成28年度 授業改善推進プラン

東大和市立第四中学校 数学科

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画	評価・反省(2月)
一 年	・分数や小数、九九等の基礎学力の定着に差がみられるため、繰り返しを大切にして、計算の基礎・基本の徹底を図る。 ・発展的な問題に対して苦手意識がある生徒が多く、定着が不十分である。じっくり考えさせ、「見方や考え方」の能力を高めていく指導が課題である。	・繰り返し基本的な問題に多く取り組ませる。また、週1回の割合で5分間テストを実施する等、基礎学力の定着を図る。 ・グループ学習等の生徒同士で学び合える授業形態の工夫を行い、論理的思考力を高めるための指導を心がける。	・個に応じた指導を常に心がける。また、補充・発展的な課題に数多く取り組ませる。 ・夏季休業日に補充学習教室（1学期の復習）を開催する。 ・毎回定期考査後に解き直しレポートに取り組ませ、自己分析をする機会を設けて主体的な学びの課程をつくる。	
二 年	・基礎学力の定着に差がみられるため、繰り返しを大切にし、計算の基礎・基本の徹底を図る。 ・思考・判断を見る問題に対して、苦手意識がある生徒が多く、定着が不十分である。じっくりと考えさせ、「見方や考え方」の能力を高めていく指導が課題である。	・基本的な問題に繰り返し取り組ませる。また、週1回の割合で小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・グループ学習等の生徒同士で学び合える授業形態の工夫を行い、論理的思考力を高めるための指導を心がける。	・習熟度別少人数授業の特性を生かし、個に応じた指導を心がける。また、補充・発展的な課題に取り組ませる。 ・夏季休業日に補充学習教室（1学期の復習）を開催する。 ・定期考査後に解き直しレポートに取り組み、自己分析をさせる。	
三 年	・どの内容でも問題の意味をじっくり考えさせる。そして、考える方法を具体的に考えさせたり、その考えを説明させたりする活動を、多く取り入れる。 ・「見方や考え方」の能力を高めていく指導が課題である。	・数量関係では、表・グラフ・式の意味を考え、数量関係を捉えさせる機会を多くもたせる。 ・図形分野では、視覚に訴える教材の準備をして、操作的な活動を多くする。 ・「見方・考え方」の能力を高めるために数学的思考力を養う課題に取り組ませる。 ・毎授業で小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・習熟度別少人数授業の特性を生かし、個に応じた指導を心がける。また、補充・発展的な課題に取り組ませる。 ・夏季休業日に補充学習教室（1学期の復習）を開催する。 ・定期考査後に解き直しレポートに取り組み、自己分析をさせる。	